



決意のことば

本日、私たちが大人としての第一歩を踏み出すにあたり、このような盛大な式典を開催していただきましたことは、一生忘れることのない感激です。

高木市長をはじめ、ご来賓の皆さまより、心にしみるご祝辞と励ましのお言葉をいただき、二十歳の新成人を代表して心より御礼申し上げます。

そして今日まで私たちを育て、支え、導いてくださった家族、先生方、地域の皆さまに、私たちが無事二十歳の節目を迎えられたことをご報告するとともに、重ねて深く感謝申し上げます。

「誰にも見えない努力を、誇れる人でありたい。」

蝶は羽ばたく前に蛹の時間があり、花は咲く前に蕾の時間があります。

どちらも、目には見えないところで力を蓄え、美しく咲くその瞬間を待っています。

私たちにも、結果がすぐには見えず、苦しくて、悔しくて、そんな蕾の時間がありました。

「本当にできるのか」「私にその力があるのか」

そう問いながら、不安に押しつぶされそうになった日も、無理だと言われ、心に深い傷を抱えた日もありました。自分を信じられなくなった瞬間もあったと思います。

それでもそんな時、

「自分の可能性を信じ続ける」

その思いが、前へ踏み出す私の背中を、ずっと押し続けてくれました。

私は信じています。

自分を信じる力こそ、未来をひらく翼になる。努力が実らない時間があってもその翼は、努力と準備を積み重ねた人のもとに育つのだと。

私たちは今日、二十歳として新たな扉の前に立っています。

これから先、思い通りにならない日も、迷う瞬間もあるでしょう。それでも、自分を見捨てず、可能性を信じ続けられる大人でありたい。

そして、自分のためだけでなく、これまで支えてくれた人に対して恥じない選択をし、次は私たちが、誰かの背中をそっと押せる存在になりたい。

片方の手で夢を掴み、もう片方の手で誰かに差し伸べる。今日ここにいる全員が、そんなあたたかい大人になれば、きっと素敵な社会になるはずです。

夢の形が違って、進む速度が違って、それぞれの翼を信じ続けましょう。倒れても、挫けても、諦めなければ未来は必ず開ける。

「翼を持たずに生まれてきたのなら、翼を生やすためにどんな障害も乗り越えなさい。」夢は果てしなくあり次から次へと望んでしまいましたが、本日ここにこうして立たせていただいていることが何よりも素敵な夢なのだと感じております。ここから始まる未来に向かって、私たちが力強く羽ばたいていけるよう、願いを込めて。

本日は、誠にありがとうございました。

令和8年1月11日
山梨市二十歳のつどい実行委員会
実行委員長 谷古宇 愛麗

